遠江医学会－１００周年記念事業について

遠江医学会

研 究 内 容：(事業概要)

論文名 ：遠江医学会－100 周年記念事業について
団体名 ：遠 江 医 学 会
申請者名 ：代表者 遠江医学会 会長 山 崎 昇
常任幹事 馬 渕 友 良, 藤 澤 弘 芳, 舟 越 龍 也, 渥 美 哲 至,
橋 爪 一 光, 西 脇 眞, 稲 本 裕, 高 橋 正 明,
小 林 寛, 山 本 英 明, 澤 田 啓

1. はじめに

遠江医学会は、明治 37 年に創設され、第二次世界大戦中及び戦後の 4 年間の中断期間を除いて昨年、創立 100 周年を迎えたわが国でも最も伝統のある医学会である。

遠江医学会は、浜松市をはじめ、静岡県西部の医師会員約 1,500 名で組織し、臨床医学の研鑽を期し、兼ねて会員の親睦を図ることを目的として、毎年春季と秋季の2回、会員研究発表会と学術講演会(特別講演)を行っている。

明治・大正・昭和・平成と激動の 20 世紀を通じ、地域医療の第一線で活躍している会員が、専門分野を超えて一堂に会し、地域の医療課題に正面から取り組み、また、先進医学の動向把握につとめ、学術的にも優れた研究成果を挙げ、浜松市をはじめ、県西部地域の医療水準の向上に大きく寄与してきた。

2. 目 的

創立 100 周年を迎え、県西部の会員が多数参加し、「遠江医学会 100 年の歩み」を検証し、郡市医師会員の研究発表と、特別講演を開催し、医学に関する最新の情報交換の場として大変有益な記念事業になるものと考え、「遠江医学会創立 100 周年記念大会」を平成 20 年 11 月 16 日(日)に、グランドホテル浜松において開催した。

記念行事としては、創立 100 周年－記念式典、功労者表彰、郡市医師会研究発表会、特別講演 2 題を実施した。

また、特別企画として遠江医学会の 100 年にわたる輝かしい歴史を、写真や図表により展示し、会員の方々にご覧いただき、本会の今後の益々の発展に寄与することを目的に、特別展示「遠江医学会 100 年のあゆみ」を、大会の当日、グランドホテル浜松の「桃山の間」で開催した。

さらに、100 周年記念事業の一つとして、創立から 100 年の活動状況を調査・収集し、「遠江医学会々報－100 周年記念号―」を本年 6 月 21 日に編集・発行することとした。

3. 方法 (記念行事の内容)

遠江医学会創立 100 周年記念大会の行事

平成 20 年 11 月 16 日(日)、グランドホテル浜松で「遠江医学会創立 100 周年記念大会」を、開催した。

(1) 記念式典

記念式典では、来賓として唐澤祥人日本医師会長をはじめ 7 名を招待し、会長、常任幹事と

して当会の運営に長年ご活躍いただいた37名に感謝状を贈呈した。

(2) 会員研究発表会

記念大会のため、一般会員からの研究発表の応募は行わず、各郡市医師会からの代表者による郡市医師会研究発表会とした。

(3) 特別講演

特別講演Ⅰ「光技術と医療とのかかわり」

浜松ホトニクス株式会社取締役副会長　大塚治司

特別講演Ⅱ「近年の国民医療と今後一地域医療崩壊の現状を踏まえて」

日本医師会長　唐澤祥人

の講演を実施した。

(4) 特別展示「遠江医学会100年のあゆみ」

特別企画として遠江医学会の100年にわたる輝かしい歴史を、写真や図表により展示し、会員の方々にご理解いただき、本会の今後の益々の発展に寄与することを目的に、特別展示「遠江医学会100年のあゆみ」を、大会の当日、グランドホテル浜松の「桃山の間」で開催した。

(5) 遠江医学会－100周年記念誌」の編集・発行(資料2 記念誌)(目次)

遠江医学会創立100周年を記念して、今年の6月21日に、「遠江医学会－100周年記念誌」(資料2)を編集・発行した。

4. 結 果(記念事業の詳細)

(1) 記念式典

記念式典では、来賓として唐澤祥人日本医師会長、大須賀淑郎静岡県厚生部長、鈴木康友浜松市長、鈴木勝彦静岡県医師会長、寺尾俊彦浜松医科大学長、安藤幸史静岡県病院協会副会長が、ご臨席いただきから皆様から祝辞をいただいた。

表彰式では、岡田和親名誉会長をはじめ、永年にわたり遠江医学会理事、常任幹事並びに監事として本会の運営に参画し、本会の発展に多大なご尽力を賜った37名の方々を表彰し記念品を贈呈した。

(2) 会員研究発表会

会員の研究発表会では、各郡市医師会の代表者7名から下記のような、地域の特色を活かした研究テーマ、緑茶によるメタボリックシンドロームの予防効果、救急医療体制、医療連携体制、がん検診、禁煙治療等興味深い研究発表があった。

1. 緑茶を用いた動脈硬化予防事業(小笠医師会)
2. 袋井市における救急医療体制とその問題点(磐周医師会)
3. 磐田市における医療連携体制推進事業について(磐田市医師会)
4. 浜松市医師会のがん検診に対するとりくみ(浜松市)
5. 浜名医師会における禁煙治療の実際(浜名医師会)
6. 浜北区(旧浜北市)のPSA値による前立腺癌住民検診
7. 消化器ガン検診(胃・大腸を考える

会員からの活発な討議が行われ、100 周年記念の研究発表として、大変有益であった。

(3) 特別講演

特別講演 I では、浜松ホトニクス株式会社取締役副会長大塚治司様から「「最近の 64 スライス(256→320 スライス)医用 X 線 CT 装置のなかには浜松ホトニクス製の半導体の光センサーが多数使われていますが、本装置によって、一発で瞬間的に撮れるので、僅かな造影剤で済むことになった。

PET 検診装置用 光電子増倍管－浜松ホトニクスでは二十数年前から PET にかかわる仕事をしてきた。特に脳の変化、アルツハイマーやパーキンソンの脳の変化を PET で解明、FDG を使用した癌の早期診断に関する研究。血球分析装置用 光電子倍増管－フローセルに落ちてくる血球に光を当て,その蛍光や、散乱光を観察する装置。蛍光を観察することでサンプルの DNA や RNA 量が測定でき、散乱光で細胞内構造やサイズが分かるようになったと、」光技術の進歩が医療の分野で多大な貢献をしている現状を判りやすくお話しいただいた。

特別講演 II では、唐澤日本医師会長には、特別講演 II として「近年の国民医療と今後－地域医療崩壊の現状を踏まえて」と題して、今日の医療崩壊の要因としての、「医療費抑制政策」「医療費亡国論」の考えを何とか覆したいとの日本医師会の取り組みについて講演していただいた。

「小泉政権ができてから、医療費が毎年 2,200 億円ずつの削減が行われており、これを続けたら、完全に日本の医療は崩壊してしまう、国民医療のため、医療現場を守るために、日本医師会はこの削減制度を廃止していただくよう取り組んできた。そして、ようやくそれが多少認められ、昨年 1 月に、「社会保障国民会議」を結成し、医療費亡国論ではなく、医療費は必要なものは確保していくと言う基本的なスタンスを組み込むことができた。

日本医師会では、現在、グランドデザインをまとめる作業をしており、社会保障国民会議でも、医療費亡国論から、医療を健全に維持するためには財源がなければならない、ですから、財源を何とかつくろうという話にまで辿りついた。まさに道半ばですが、日々取り組んでいるところである。」と地域医療の崩壊の要因と、それに対する日本医師会の取り組みについて力強くお話しいただいた。

(4) 特別展示「遠江医学会 100 年のあゆみ」

遠江医学会の沿革、歴代会長、会員数年度別推移、開催状況、数年度別推移、遠江医学会例会一般演題年度別推移、遠江医学会会報発行状況、遠江医学会々誌、特集号(遠江医学会 50 年の歩み、還暦の遠江医学会、70 周年記念号、80 周年記念号、90 周年記念号)、遠江医学会学術奨励賞受賞者一覧表、遠江医学会と同様の形式の医学会一全国調査結果等についてパネルを展示した。

戦災で消失して、創立当初からの古い遠江医学会々誌が完全に揃わないために、1 部欠落しているところはあるが、現時点での可能な限りの資料を調査し、多くの貴重な資料を展示することができた。

特別展示に展示した資料は、遠江医学会100年を省みるためにいずれも貴重な資料ですので、略全部を「遠江医学会—100 周年記念誌－」に掲載した。

記念大会の特別展示として「記念写真展」を企画し、会員の皆様に、本会の創設当時から現在までの長年にわたる貴重な記念写真・資料を所蔵される方に、提供を依頼し、多くの会員から貴重は写真の提供をいただき、これらの写真を「思い出の写真」として60枚ほど選択して、展示した。

遠江医学会の古い資料は、第二次世界大戦の浜松大空襲で殆ど消失した。幸いにも、代々医院が続いている本間 誠一先生のお宅は戦災に遭われなかったため、多数の貴重な医療に関する古文書や資料が保存されていたので、先生の厚意により多くの貴重な資料を展示することができた。

また、一貫堂病院の馬渕友良先生のお宅の土蔵が幸いにも、戦災をまぬかれたので、大正12年の遠江医学会創立20周年に関する貴重な資料を始め、安政・明治・大正・昭和の初期における医学に関する古書、医学書や医療器具が保存されていたので、これらの歴史的資料・書籍・医療機器等を展示した。

また、記念大会の当日、グランドホテル浜松のエグゼクティヴハウスと2階の回廊で会員の記念芸術展を開催した。

(5) 遠江医学会－100周年記念誌」の編集・発行(資料2 記念誌)(目次)

遠江医学会創立100周年を記念して、今年の6月21日に、「遠江医学会－100周年記念誌」(資料2)を編集・発行した。

掲載した記事は「遠江医学会－100周年記念誌－目次に記載したように、

1. 創立100周年記念式典(会長挨拶・来賓祝辞)
2. 創立100周年記念によせて(文部科学大臣塩谷立様、会員殻の寄稿)
3. 特別展示 遠江医学会100年の歩み(遠江医学会の創設時から100年にわたる業績を詳細に調査し、記録として編集した。)
4. 郡市医師会研究発表会(7郡市医師会からの代表による研究発表の抄録を掲載)
5. 特 別 講 演(特別講演)
6. 創立100周年 記念行事

を掲載した。

本記念誌には、浜松ホトニクス株式会社取締役副会長大塚治司様の「光技術と医療とのかかわり」と、日本医師会長唐澤祥人様の「「近年の国民医療と今後－地域医療崩壊の現状を踏まえて－」の特別講演の講演内容がほぼ全文、図表を挿入して執筆していただき、お陰で充実した記念誌になった。

記念大会の行事の写真や、特別展示「遠江医学会100年のあゆみ」の中の貴重な図表を多くのカラー頁に掲載した。

「遠江医学会 100 周年記念に寄せて」の欄には、文部科学大臣塩谷 立様、岡田和親名誉会長をはじめ、郡市医師会長の皆様に心温まるお祝いと励ましのお言葉をいただき、多くの会員から懐かしい遠江医学会の想い出について執筆していただいた。

また、特別展示にお宅に所蔵されていた貴重な遠江医学会に関連した古い資料、古文書、医学書を多数、ご提供いただいた馬渕友良先生、本間 誠一先生には、資料についての解説をはじめ、興味深い記事を執筆していただいた。

5. 考察・結語

遠江医学会創立 100 周年記念大会では、多数の浜松市医師会の会員が参加し、郡市医師会員の研究発表では熱心な討論がなされ、特別講演として、浜松ホトニクス株式会社取締役副会長大塚治司様の「光技術と医療とのかかわり」と、日本医師会長唐澤祥人様の「「近年の国民医療と今後－地域医療崩壊の現状を踏まえて－」の講演を聴講し、地元の光技術の医療へのかかわりと、医学・医療に関する最新の課題を理解し、会員の情報交換の場として大変有益な記念事業であったと思います。

また、「遠江医学会－100 周年記念誌－」は遠江医学会の 100 年の会員の学会活動の状況を理解する上で、極めて貴重な資料であり、浜松市における医療水準の向上に大きく貢献するものと考えます。

参考資料　1

遠江医学会概要

1. 目　的：臨床医学の研鑽を期し、兼ねて会員の親睦を図る。
2. 会　員：小笠、磐周、磐田市、浜松市、浜名、浜北、引佐郡の全医師会会員で組織する。
   平成21年現在、約1,500名。
3. 明治37年「遠江医学会」創設。医師会が主管し、学会形式で会員の研究発表を主体とし、全医学分野を含む総合医学会。郡市医師会が主管する医学会では、福井医学会に次いで古い伝統ある医学会。
4. 昨年 11 月 16 日に「創立100周年記念大会」を開催。総会・学術集会: 毎年2回. 春 6 月、秋 11 月に開催。
5. 会報を年 1 回発行
6. 会員研究発表: 毎回 約 30 題の会員研究発表が行われる。
7. 特別講演: 新しい医学に関する課題について特別講演を依頼し、先進医学の動向把握に努めている。
8. 名誉会員: 特別講演をお願いした先生には、本会の名誉会員に推挙する。
9. 会　長: 浜松医科大学名誉教授（浜松医科大学前学長）　　山 崎　昇
10. 事務局　浜松市中区鴨江町2丁目11番地2号　浜松市医師会館内

参考資料 2

遠 江 医 学 会 会 則

（平成７年６月改定）

第一条　本会は遠江医学会と称す。

第二条　本会は事務所を浜松市鴨江２丁目11番２号　浜松市医師会館内に置く。

第三条　本会は臨床医学の研鑽を期し、兼ねて会員の親睦を図ることを目的とする。

第四条　本会は小笠、磐周、磐田市、浜松市、浜名郡、浜北市、引佐郡の全医師会会員で組織する。

第五条　本会は静岡県医師会と連絡し、目的達成のため下の事業を行なう。

1. 学術講演会
2. 会報の発行
3. その他第三条の目的達成に必要な事業

第六条　本会に次の役員を置く。

会　　長　１名
理　　事　若干名
常任幹事　若干名
監　　事　２名
評議員　若干名

第七条　会長は本会を総理し、理事は会長を輔け、会長事故ある時は理事の一人が代理する。

常任幹事は庶務、会計を掌理する。監事は会務を監督する。

評議員は他の役員と共に役員会を構成し本会の重要事項を審議する。

第八条　会長及び監事は役員会に於いて推せんし総会の同意を経るものとする。

第九条　理事は各郡市医師会長及び病院代表を以って充てる。

常任幹事は会長が理事会にはかり会員中より依嘱する。

評議員は各郡市医師会に於いて所属会員50名又はその端数を増す毎に１名の割にその医師会長が選出し会長が依嘱する。

第十条　本会の趣旨を賛同する学識名望ある人を名誉会員に、又本会に対し特に功労のあった人を顧問及び名誉会長に推薦することができる。

但し、顧問及び名誉会長は会長が推薦し総会の同意を経るものとする。

顧問及び名誉会長は本会の重要事項に関し会長の諮問に応ずる。

第十一条　役員の任期は二ケ年とする。但し重任を妨げない。

第十二条　本会の集会は、総会、学術講演会、理事会、常任幹事会及び役員会とする。

役員会は会長、理事、監事、常任幹事及び評議員を以って構成する。

第十三条　総会は毎年２回６月と11月に開催し、本会の必要案件を決議し、又会務の報告を行なう。

2. 学術講演会は毎年２回以上開催する。
3. 理事会、常任幹事会及び役員会は必要に応じ会長が招集する。

第十四条　本会の経費は会費、補助金、寄付金及びその他の収入を以って充てる。

第十五条　会費額は役員会に於いて協議し総会の同意を得て定め、各郡市医師会より醵出するものとする。

第十六条　本会の会計年度は４月１日より翌年３月末日までとする。

第十七条　本会の事務を処理するため事務員を依嘱することができる。

第十八条　本会則は総会の決議によらなければ変更することはできない。

遠江医学会の沿革

参考資料 3

年 月 日	
明治 7 年(1874 年)	県立浜松病院に浜松医学校が附設され、初代校長に太田用成が就任。開業医に新知識を与えるために、毎月一定の日時に医学講習会を開き校長や教授が出張して補習教育を行った。
明治 9 年 8 月	浜松県は静岡県に合併されて浜松医学校は静岡県立となる。
明治 11 年 5 月	太田用成校長は、アメリカのペンシルバニア大学のヘンリー・ハルツホルン博士が明治 7 年に刊行した CONSPECTUS OF MEDICAL SCIENCE の第 2 版の翻訳を志し、柴田邵平及び虎岩武と共にこれに当たり、上編を、解剖・生理・化学・薬物・内科・外科・産科の 7 科目を訳述してあるところから「七科約説」と命名して出版し、明治 12 年に下編を出版した。
明治 13 年	浜松医学校は予算不足のため廃校となった。
明治 33 年(1900 年)	浜松に、「ペスト」病が発生、その時「ペスト」を診断した福島豊作医師が、町民から感謝されるどころか、逆に非難攻撃をされ圧迫を被った。 これに対し、医師らは、一般町民の啓蒙が必要であることを痛感、足立謙一郎氏、内藤武男、福島橘郎氏の 3 氏が発起人となり、医師同志の結束、より深い医学の研鑽、医師の権威の保持及び協力、親睦を目的として「浜松同志会」を結成した。(その後、「浜松医学会」と改称した。)
明治 33 年 6 月 10 日	浜松同志会の初会合が行われた。
明治 37 年(1904 年)	足立謙一郎氏を中心とした浜松同志会は、熊谷 謙、大庭伊太郎、馬渕貞司の諸氏が熱心な創設、育成に尽力された結果、さらに発展、大井川以西に拡大し、遠江一円の地方医学会、「遠江医学会」が創設された。
明治 44 年 10 月 1 日	学会会報第 5 号発行。 現存する最古の会誌。
大正 12 年 6 月 17 日	創立 20 周年記念総会開催 第 6 代理事長 馬渕 貞司
大正 15 年	第 7 代会長に馬渕享三郎先生就任
昭和 6 年 11 月	本学会創世時以来 25 年の歳月を引き続き名誉会頭として就任されていた片山國嘉先生が 61 才で逝去された。
昭和 8 年 6 月 11 日	創立 30 周年記念行事を開催 第 7 代会長 馬渕 享三郎 会員 200 名
昭和 9 年 6 月 10 日	会則の理事長を会長に改める。本会の趣旨を賛成する学識名望ある人を名誉会員に推薦することとした。以後、本学会で特別講演をした講師は、総て名誉会員に推薦することになった。本会の名誉会員には全国における著名な医学会の碩学泰斗が洩れなく参与している。
昭和 11 年 2 月	第 8 代会長に内藤鼎先生が就任
昭和 17 年 1 月	遠江医学会々報は第 33 号を以って休刊した。
昭和 17 年 6 月	大東亜戦争が激しくなり、第 39 回総会を最後に 5 年間、学会を中断し、遠江医学会々報は第 33 号の発行をもって休止した。
昭和 22 年 11 月 22 日	昭和 10 年来、主席幹事として活躍していた岡部慎爾先生の尽力により復興第 1 回評議員会が開催された。
昭和 22 年 12 月 14 日	復興第 1 回総会を開催。本会の復興の第一歩は力強く踏み出された。

昭和 23 年 8 月 15 日	遠江医学会々報の第 34 号が「復興第 1 号]として発刊された。
昭和 25 年 6 月	アメリカの指令で医師の補習教育が必要となり、新制静岡県医師会は、県を東部、中部・西部の 3 医学会に分けた。榛原郡は中部医学会に編入され、以後遠江医学会は小笠郡以西となる。
昭和 25 年 12 月 3 日	改組第1回学術講演会が紺屋町にあった浜松市医師会館で開催された。
昭和 26 年 6 月 11 日	全国医師会定款に基づいて、会則の大改正が行われ、小笠・周智・磐田郡・磐田市・浜名郡・浜松市・引佐郡の全医師会員をもって医師の補習教育並びに学術研究機関として改めて発足することとなった。 本学会は「静岡県西部医学会」の性格も合わせ持つ医学会である。。
昭和 33 年 6 月 8 日 (1960 年)	遠江医学会創立 50 周年記念大会開催。第 12 代会長内田六郎は、資料が戦火でほとんど消失し、現存する資料を苦心惨憺収集し、「遠江医学会五十年の歩み」と題した詳細な「遠江医学会史」を編纂した。
昭和 43 年 6 月 9 日 (1968 年)	創立 60 周年記念総会と秋季学術講演会開催。第 13 代会長稲留藤次郎特別講演に武見太郎日本医師会会長「医学教育の混乱と医療制度への波及」が行われた。
昭和 43 年 11 月 3 日	「還暦の遠江医学会」と題した記念会誌を編集、発行した。
昭和 47 年 6 月 11 日	遠江医学会学術講演会抄録集を発行した。 (昭和 46～49 年度)
昭和 51 年 6 月 10 日	昭和 23 年、会報第 34 号発行後発刊が中断していたが、会報第 35 号として戦後 30 数年ぶりに、「遠江医学会々報」を復刊した。
昭和 53 年 11 月 19 日 (1990 年)	創立 70 周年記念総会と秋季学術講演回を開催 第 15 代会長 村尾 正
昭和 54 年 11 月 30 日	遠江医学会々報―70 周年記念号―を編集、発刊した。
昭和 63 年 11 月 27 日 (1988 年)	創立 80 周年記念総会と秋季学術講演会を開催。第 16 代会長 君野徹三。戦前の会報は年月を経て破損も進み、やがては判読不能になることを虞れて、遠江医学会々誌の復刻版を刊行した。 全国県医師会の創設年次を調査した結果、福井医学会が最も古く、本学会は 2 位であることが判明した。また、明治 44 年 19 月発行の会誌の裏面に印刷されたシンボルマークを発見し、今後、本会のシンボルマークとして使用することにした。
平成元年 5 月 15 日	遠江医学会々誌―80 周年記念号―を編集、発行した。
平成 10 年 11 月 15 日 (2000 年)	創立 90 周年記念大会を開催。第 17 代会長 岡田和親。特別講演に山崎昇浜松医科大学学長の「医学教育における最近の話題」、坪井栄孝日本医師会長の「何故今、医療の改革が必要なのか」が行われた。90 周年記念ゴルフ大会・記念テニス大会・記念芸術展を開催した。
平成 11 年 5 月 27i 日	遠江医学会々誌―90 周年記念号―を編集、発行した。
平成 14 年 6 月 16 日	会員研究発表の中から、優秀論文に学術奨励賞を授与することとした。
平成 20 年 11 月 16 日 (2008 年)	創立 100 周年記念大会を開催 会長 山崎 昇。郡市医師会の研究発表会に次いで、特別講演として、浜松ホトニクス株式会社取締役副会長大塚治司氏が「光技術と医療とのかかわり」、唐澤祥人日本医師会会長が「近年の国民医療と今後-地域医療崩壊の現状を踏まえて―」と題して講演が行われた。当日、特別展示「遠江医学会 100 年のあゆみ」を開設した。また、記念芸術展、医療機器等展示が開催された。
平成 21 年 6 月 21 日	遠江医学会―100 周年記念誌―を編集、発行した。

遠江医学会－100周年記念誌

目　次

1. 創立100周年記念式典

創立100周年記念 式典次第 招待者名簿 表彰者名簿…… 21
会長挨拶 ……遠江医学会 会長 山崎 昇……23
祝　辞 ……日本医師会 会長 唐澤祥人……26
祝　辞 ……静岡県厚生部 部長 大須賀淑郎……27
祝　辞 ……浜松市市長 鈴木康友……28
祝　辞 ……静岡県医師会 会長 鈴木勝彦……29
祝　辞 ……浜松医科大学 学長 寺尾俊彦……31
祝　辞 ……静岡県病院協会 副会長 安藤孝史……33

2. 創立100周年記念によせて

「遠江医学会々誌－100年号－」発刊にあたり……文部科学大臣 塩谷 立……35
思い出すままに…… 遠江医学会 名誉会長 岡田和親…… 36
100周年記念に寄せて …… 浜松市医師会 前会長 大石正晃…… 38
遠江医学会創立100周年記念によせて… ……浜松医師会 会長 山口智之……39
遠江医学会100周年記年によせて 磐田市医師会 会長 青島周明……40
国民医療の安心と安全をまもり続ける遠江医学会
浜北医師会 会長 坂尾正 ……41
10年経った市民マラソンの熱中症対策… …小笠医師会 会長 菅沼明人……43
遠江医学会創立100周年記念大会に参加して‥浜名医師会 会長 後藤雄大……44
遠江医学会100周年によせて ‥引佐郡医師会 会長 牧原衛…… 45
遠江医学会さ・え・ら 遠江医学会 常任幹事 藤澤弘芳…… 46
遠江医学会100周年に寄せて 白川内科消化器科循環器科 白川彰…… 48

3. 特別展示 遠江医学会100年の歩み

1. ご挨拶……59
2. 遠江学会の沿革…… 60
3. 遠江医学会歴代会長……（カラー1P参照）… 62
4. 遠江医学会開催状況…… …… 62
5.遠江医学会会員数年度別推移……（カラー15P参照）… 67
6. 遠江医学会例会一般年度別推移……（カラー15P参照）…67
7. 遠江医学会々報発行状況…… 67
8. 遠江医学会々誌 特集号（50年の歩み・60年記念号，70年記念号，80年記念号，90年記念号）…… …カラー15P参照）…69
9. 遠江医学会特別講演一覧表…… 70
10. 遠江医学会学術奨励賞受賞者一覧表…… 79
11. 遠江医学会と同様の形式の医学会一全国調査結果…… …… 80
12. シンボルマークに就いて…… 81
13.歴代遠江医学会々誌より特別記事 …… 82
(1)遠江医学会由来記 ……第12代会長 内田六郎 … 82
(2)遠江医学会50年の歩み……第12代会長 内田六郎 ……83
(3)遠江医学会60周年を祝す…… 日本医師会 会長 武見太郎…… 84

(4)遠江医学会々誌の復刊を祝して…　…　第13代会長　稲留藤次郎……　85
(5)遠江医学会々誌復刻版について……第16代会長　君野徹三……　86
(6)七科約説について……第17代会長　岡田和親……　87
(7)医師と病者との理想上の関係……　名誉会頭　片山國嘉……　88
「特別展示」遠江医学会100年のあゆみに出品して
浜松医師会　副会長　本間誠一　……89
「特別展示」遠江医学会100周年のあゆみ－書籍・資料医療機器等展示に寄せて
遠江医学会　庶務幹事　一貫堂内科消化器科医院　馬渕友良…　98

4. 郡市医師会研究発表会

遠江医学会創立100周年記念大会と平成20年度秋季学術講演会(第117回)　109
郡市医師会研究発表　プログラム　……　109
郡市医師会研究発表　抄録　……　111

5. 特別講演

1. 光技術と医療とのかかわり　……　119
浜松ホトニクス株式会社　取締役副会長　大塚治司
2. 近年の国民医療と今後一地域医療崩壊の現状を踏まえて　……　128
日本医師会　会長　唐澤祥人

6. 創立100周年　記念行事

遠江医学会100周年記念　ゴルフ大会　……　146
遠江医学会100周年記念　テニス大会……　150
遠江医学会100周年記念　囲碁大会　……　151
遠江医学会100周年記念　芸術展　……　152
遠江医学会100周年記念　協賛医療器機等展示　……154
遠江医学会プログラム(平成11年～19年　……　……163
平成20年春季学術講演会(第116回)プログラム……　233
Ⅰ. 会員研究発表会抄録……　237
Ⅱ. 特別講演　……　249
学会・懇親会……250
平成20年度　庶務報告　……　251
平成20年　春季ゴルフ大会報告　……　251
遠江医学会会則……　252
歴代名誉会員……253
役員名簿(平成11年～平成20年)……　256
平成20年度　遠江医学会役員名簿　……　258
記念大会を終えて　遠江医学会　会長　山崎　昇　……　259

遠江医学会創立100周年記念大会　事業報告書

遠江医学会創立100周年記念大会行事

日　時：平成20年11月16日（日）
会　場：グランドホテル浜松　浜松市中区東伊場1－3－1

1. 郡市医師会研究発表 午後0時30分　孔雀の間
2. 記念式典 表彰式　　午後3時00分　孔雀の間
3. 特別講演　　午後4時30分　孔雀の間

　(1) 光技術と医療のかかわり

　　浜松ホトニクス株式会社　取締役副会長　大塚　治司　様

　(2) 近年の国民医療と今後－地域医療崩壊の現状を踏まえて－

　　日本医師会　会長　唐澤　祥人　様

4. 祝賀パーティ　　午後7時00分　鶴の間
5. 特別展示「遠江医学会100年のあゆみ」桃山の間
6. 記念芸術展　平成20年11月16日(日)エグゼクティブハウス・2階回廊
7. 医療機器等展示　白鳥の間
8. 遠江医学会々誌－100周年記念号－編集発行(平成21年6月21日)

資料　3

内容の要約

論文名 ：遠江医学会－100周年記念事業について
団体名 ：遠 江 医 学 会
申請者名 ：代表者　遠江医学会　会長　山 崎　昇

遠江医学会は、昨年、創立100周年を迎え、「遠江医学会創立100記念大会」を11月 16 日にグランドホテル浜松において開催、記念式典、功労者表彰、郡市医師会研究発表会、特別講演を実施した。また、特別展示「遠江医学会 100 年のあゆみ」を、大会の当日、グランドホテル浜松の「桃山の間」で開催した。多数の浜松市医師会員が参加し、研究発表では熱心な討論がなされ、特別講演では、医学・医療に関する最新の課題について学習し、会員の情報交換の場として大変有益な大会であった。

さらに、記念事業の一つとして、創立から100年の当医学会の活動状況を調査・収集し、「遠江医学会－100周年記念誌―」を本年6月 21 日に編集・発行した。

本誌は、遠江医学会の100年の活動状況を理解する上で、極めて貴重な資料であり、浜松市における医療水準の向上に大きく貢献するものと考える。